

## 集会アピール

日本国憲法は、「すべて国民は個人として尊重される」と、誰もが人間としての尊厳を大切にされて生きていけることをうたっています。

昨年、安倍政権は多くの国民の反対を押し切り、憲法違反の「安保法制」＝「戦争法」を強行成立させました。あれから1年。わたしたちは「戦争法」廃止をめざすたくさんの市民と出会ってともに運動し、市民の力で人間の尊厳が尊重される政治や社会に変えていく展望を切り開きました。

今年7月の参議院選挙では「野党は共闘」の市民の声に応え、野党4党が「安保法制の廃止と集団的自衛権行使容認の閣議決定撤回」をはじめ、「アベノミクスによる国民生活の破壊、格差と貧困の拡大の是正」や「安倍政権のもとでの憲法改悪に反対」など共通政策を掲げて、32 すべての一人区で統一候補を擁立し、11 の選挙区で激戦を制して勝利しました。

一方、安倍政権は参議院選挙中は一言も「憲法改正」を言わず、選挙で改憲勢力が3分の2の議席を確保するなり、「改憲」や戦争への道をいっそう暴走しています。その動きと表裏一体に、社会保障の理念を解体して国の責任を放棄し、権利としての社会保障は自己責任に、そして医療や介護、福祉の削られた分野は営利企業の儲けの場に、と変質させようとしています。あらゆる分野で「負担増と給付削減」を押し進める安倍政権と、国民の切実ないのちとくらしの要求との矛盾がいっそうひろがることは必至です。

「いつでも、どこでも、誰でも、必要な時に、安全・安心の医療・介護が受けられる」ことは、国民の最も切実な願いであり、憲法で保障された日本国民の権利です。「負担増と給付削減」にストップをかけることは、医療や介護、福祉の現場ではたらくわたしたちの使命です。

たくさんの市民が主権者として声をあげはじめました。これまでそれぞれの分野で社会保障をまもる運動にとりくんできたわたしたちも手を取り合い、いっしょに「憲法・いのち・社会保障」をまもりましょう。

わたしたちは「社会保障の解体」も「戦争する国づくり」も許さず、国に求めます。

- 国の責任で、いのちと人権が大切にされる社会保障の拡充を
- 患者・利用者の負担増ストップ！
- ストップ戦争法、平和なくして医療・介護・福祉なし
- 医療・介護・福祉の充実で、安心して住み続けられる地域を
- 医師、看護師、介護職員、保育士などの大幅増員・処遇改善を

2016年10月20日 憲法・いのち・社会保障まもる 10.20 国民集会